Letter from Jordan No.31

ヨルダン！

やっら～！

山口県PR本部長「ちょるる」

YAMAGUCHI

※「ちょるる」公式ホームページでダウンロード可能♪→

2022-1 次隊　岡崎 友里

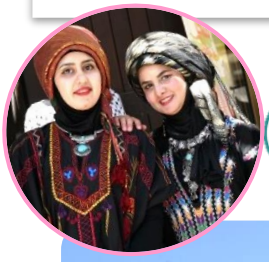
おいでませ山口（やまぐち） in ヨルダン!?

あれ？？…ヨルダンで山口県萩市の文字が？！どうして？？

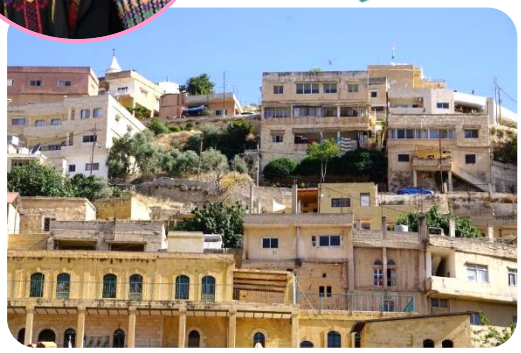
実は、ヨルダンのサルトと萩市は深いつながりがあったのです。今回はサルトの魅力とともに、萩市との関係とそこで活躍する他の協力隊隊員について紹介します。

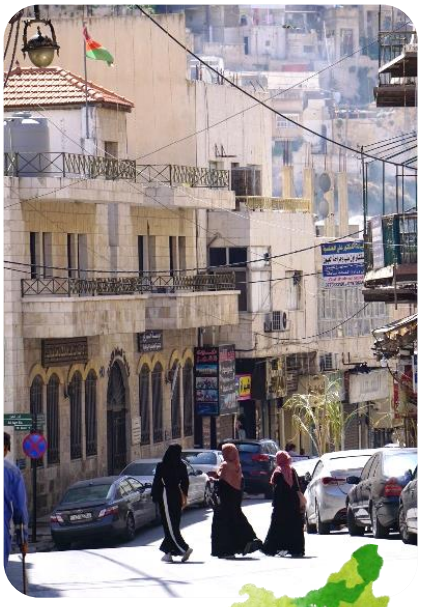
サルトってどんなところ？

ヨルダンの中西部にある人口約17万人の都市です。19世紀末～20世紀初頭に外国との商売を行う要路として栄えました。３つの丘からなる急な斜面に沿って黄色い石灰岩を用いた歴史的建造物が現在も残っています。



他の地域とは違ったサルトにはサルト地域の伝統衣装があるのよ。





萩市とのつながりは…？

天然資源の少ないヨルダンでは、観光産業が重要な産業です。そこで、サルトの博物館を観光拠点施設として、同様に歴史的な文化資源に恵まれた萩市の「萩まちじゅう博物館」の取組をモデルに地域住民の参加を促し自律的かつ持続的な観光振興を目的とした技術支援をJICAへ要請したことが始まりです。JICAによって2008年から始まったサルトにおける「持続可能な観光開発プロジェクト」に対して萩市から文化資源管理と景観管理の専門家として職員2名を派遣するなど、相互に関わりを続けてきました。駐日ヨルダン大使館特命全権大使であるリーナ大使もたびたび萩市を訪れています。

こちらも参考にご覧ください。

そんなサルトで活動中の隊員は…

ユーセフさん。東京都出身。現在の趣味は、読書とランニング。野望は、ヨルダン国内の全てのマラソン大会を制覇すること。お気に入りのアラブ料理はシャワルマ。

ユーセフ隊員！（アラビア語の名前です。）中心となるサルト観光局でサルトの魅力を広めるために日々活動しています。

@BALQA_TOURISM_AS_SALT_CITY

ヨルダンの世界遺産の街・サルトで、観光プロモーションの活動をしています！
現在、SNSを活用して、サルトの魅力発信中です！スキャンしてご覧ください♪

そして、6月5日にサルトの博物館で「萩市写真展」が行われたのです。昨年2022年11月に萩市で「ヨルダン写真展」が実施されてたのですが、今回はヨルダンでの開催となり、私もお邪魔させてもらいました！

会場となった博物館には日本大使館から奥山大使やリーナ大使、その他たくさんの方が集まり、それぞれのご挨拶の後で、飾られた写真を一枚一枚、見て回られました。さらに、サルト伝統衣装のファッションショーや地元の子どもたちによる伝統的な踊りの発表がありました。

私たちは日本文化の紹介としてソーラン節を踊り、浴衣の着付け体験のお手伝いをしました。

浴衣は大人気！着た人は嬉しそうに写真をたくさん撮っていました。

このイベントはメディアにも取り上げられました。

今回もLet's talk in Arabic♪のスペースがなくなってしまいました…。次回こそ…お楽しみに！

では、また次回！مع السلامة

2022-1 次隊　岡崎 友里

奥深い…刺繍の世界

イスラム圏の女性たちは普段から家で過ごすことが多く、家事の他に裁縫を行っていたそうです。そのため中東の国々の伝統衣装には刺繍があしらわれたものが数多くあり、私の目ではどれがどの地域か区別することは困難ですが、国や地域によって伝統的な色や模様、形が決まっているそうです。どれも美しい模様で日本とは違った色使いは、日本の伝統衣装である着物とは違った独特な魅力があります。今回はそんな刺繍について紹介します。

刺繍のあしらわれた衣装は、結婚式や行事ごとでよく着られます。

現在では機械での生産の方が多いようですが、手作業で刺繍を続ける人たちもいます。私も実際に挑戦してみることにしました！

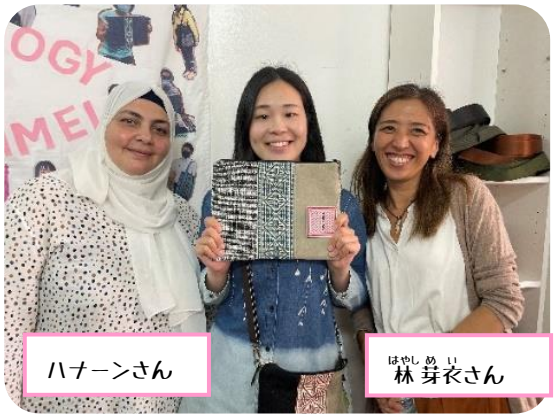
日本ではクロスステッチという名前で呼ばれ、糸を交差させながら縫い取り、図案を表現していく刺繍です。その発祥は4世紀にトルコでという人もいれば、古代ローマ時代にはすでに存在していたという人もいて、正確にはわかりません。ヨルダンに隣接するパレスチナで18～19世紀に「パレスチナ刺繍」として形作られたと言われ、その後ヨルダンにも伝えられたとも言われています。

最初は、「ただ糸を交差させて縫えばいいんだから簡単だろう。」と安易に考えていました。しかし、そんなに甘くはありませんでした…。糸の処理にも工夫が必要で、縫い方によって布の裏面が整い、仕上がりが変わるのだと教えてもらいました。模様や大きさにもよりますが、1つの作品が完成するまでにはものすごく時間も手間もかかっていると身をもって知ることができました。何でも実際に自分で試してみないとわからないなあと感じました。空いた時間を見つけて作業し、完成までに約18時間かかりました。

かんせい！

今回刺繍を教えてくださったのは、「TRIBALOGY」のみなさんです。アラブ文化から発想を得て、日本の伝統的な模様や技法を融合させながら商品を製作し、シリアやパレスチナ難民の女性たちを支援しています。

一つ一つが手作業でありながら、細かいところまで丁寧に作られているため、高品質で長く使うことができます。私もかばんやタブレットカバーを購入し、愛用しています。このカバーの刺繍をしてくださったのは今回刺繍を教えてくださったハナーンさん！作った人が分かるとますます大切にしようと思いました！



ハナーンさん　林 芽衣さん

Tribalogyとは、人類の発祥とともに育まれ、豊かな歴史と独特な価値観を持ち合わせた「部族文化」の研究を意味します。私たちはその部族文化の研究から学び、そしてそこから新たに創造していくことを通して、助けを必要としている人々への経済的、職業的なサポートを提供していくことを目的としています。(ホームページより抜粋)

下のQRコードからホームページを訪れることができます。

難民の方が多く生活するヨルダンで、特に女性のために仕事を生み出し、支援を行う日本人の一人です。

ぜひ活動をご覧ください。

※その他SNSもあります！

そして「TRIBALOGY」の創設者であり、デザイナーの林芽衣さん。中学・高校生活をスイスで過ごし、そして高校卒業とともにニューヨークでファッションデザインを学んだそうです。その後、いくつかのブランドのデザイナーとしてニューヨークとイタリアで経験を積んだ後、2008年に南ヨルダンにあるベドウィン民族の小さな村に移り住み、この村での鮮やかな体験から、部族文化を独自の制作を通じて発信していくという、この事業を始めました。早い段階で世界を知り、これからもまだ見ぬ世界を見てみたい！新しいことに挑戦したい！と意欲的な姿にいつも刺激を受けています。せっかく学んだ刺繍、私もオリジナルの作品作りに挑戦します！

Let's talk in Arabic♪

今回は、2号ぶりとなりました。早速、アラビア語を学んでみましょう♪ヤッラー！

そもそも刺繍って何て言うの？

アラビア語での名前は決まってないそうで、「ただ、糸で描いた絵」って呼ぶかな。と話していました。

التطريز

読み方：アルタトリーズ

意　味：刺繍

日本で一般的に刺繍として浸透しているフランス刺繍（好きな図案を自由に刺繍するもの）はこの言い方をしないそうです。アラビア語の表現があるということは、昔からある技術なんだなあとわかります。

だんだんと興味がわいてきたそこのあなた、ぜひ刺繍に挑戦してみてくださいね！

では、また次回！ مع السلامة

2022-1 次隊　岡崎 友里

誰一人取り残さない世界に向けて

7月になり、1学期も残りわずかとなりましたね。ちなみに、ヨルダンでは6月中旬で年度が修了し、学校や学年によって多少の差がありながらも、夏休みに入りました。ほとんどの学校が夏休みに入ったであろう6月20日、実はこの日は、国際連合総会で決められた「世界難民の日」でした。今回は「難民」について取り上げさせてください。

※一部ふりがなを付けられませんでした。読めない部分は、大人の人に聞いたり調べたりしてください。

WORLD REFUGEE DAY 20th JUNE

難民とは？

・難民とは、「難民条約」（国際条約）で定められた人々を指します。世界では1億840万人（2020年）の人が紛争や迫害などが原因で家を追われ、そのうち難民は約3530万人と言われています。世界の74人に1人、全世界人口の1％以上は故郷を追われています。（UNHCRホームページより）

UNHCR

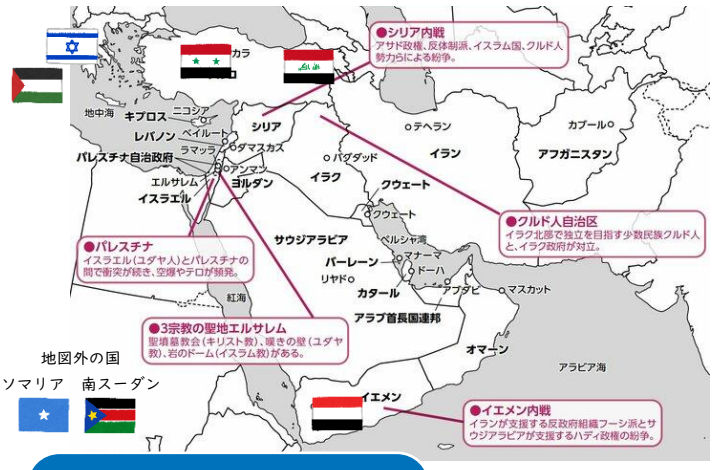
※QRコードをスキャン、または、クリックすると、詳しく知ることができます♪

16人に1人

・ヨルダンでは、周辺国のシリアを中心に、イエメン、イラク、スーダンなどからの難民とさらにパレスチナ難民を受け入れています。その数はヨルダンの人口の16人に1人の割合と言われ、世界で4番目に高い割合となっています。（UNHCRグローバルトレンドレポート2022より）

レポート2022

※QRコードをスキャン、または、クリックすると、詳しく知ることができます♪ただ、全て英語です…。



ヨルダン国内での難民の出身国は最も多いのがパレスチナで、国連において難民支援を行うのは基本的にUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）です。しかし、パレスチナ難民についてはUNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）という別の組織が支援を担当しています。パレスチナを除いて、多い順に抜粋するとシリア、イラク、スーダン、イエメン、ソマリアとなっています。

（参照：World Visionホームページ、井田仁康・編著『読むだけで世界地図が頭に入る本』）

WorldVision

10か所

・ヨルダンで生活する難民の中でも、一番多く受け入れられているパレスチナ難民の人たちが暮らすためにUNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）が支援と保護を行うキャンプという生活空間が国内に10か所ほどあります。（UNRWAホームページより）

UNRWA

※QRコードをスキャン、または、クリックすると、詳しく知ることができます♪

本当に様々な国の難民の人が生活しているため、改めて中東においてヨルダンという国が周辺国の中も穏やかで重要な役割を果たしていることが分かります。ただ、多くの難民を受け入れる一方でヨルダンは財政難でもあり、難民の人たちが安心した生活を送るためには、ヨルダン国外からの保護や支援が欠かせません。そのために、世界中から様々な人が、様々な形で自分たちにできることを行っています。海外協力隊もその一つ。隊員によっては、難民の方々が暮らすキャンプで活動し、難民の方々と大きな関わりをもつ人がいます。

そんなキャンプで活動中の隊員は…

マハさん。大阪府出身。アラブのお母さんが作るアラブ料理が大好き。一番好きなアラブ料理はマクルーバ。

その名も、マハ（アラビア語の名前です。）

ヨルダンのパレスチナ難民キャンプ内にある女性プログラムセンターに所属し、センター併設の幼稚園で英語や運動を教えたり、小中学生を対象にしたアクティビティを行ったりしています。

ヨルダンのマダバにあるキャンプの１つで活動をするマハさん。今回は「世界難民の日」に合わせて、子どもたちに「難民」について考えてもらうアクティビティを実施すると聞いて、その様子を見せてもらいました。

キャンプ内に入ってみると、外とは違った雰囲気でした。四角い家が立ち並び、細い道に入るとどこを歩いているのかわからなくなるような、似ている通りがいくつもありました。

マハさんが活動するセンターは、学校ではないので、子どもたちは自由参加です。事前の呼びかけに対して約10人の子どもが集まり、アクティビティが行われました。最初に「世界難民の日なんだよ。難民について知っていることはある？」と尋ねると、子どもたちが次々と答えました。「パレスチナだけじゃなく、エジプトやシリアからも難民が来ているよ。」「銃で撃たれたり、家を壊されたりするから違う国へ行くの。」とそこにいた小学1年生から中学1年生みんなよく知っていて、私たちの方が子どもたちから教えてもらいました。

最後は、一人一人が考えたことを絵や言葉にして発表します。「どうしてこの絵を描いたの？」と聞くと、「この子は安全な場所で暮らしたいと願っているの。」と話す子や、「最初は悲しかったけど、友達と一緒に暮らせるようになったからうれしいの。」と話す子もいました。

私にとって、こうしてじっくりと難民キャンプで暮らす子どもたちと過ごす経験は、あまりありませんでした。そのため、彼らの家族がどういった経験をしたのだろうと子どもたちの姿を通して考える機会になりました。アクティビティ中は真剣なまなざしを見せていましたが、それ以外の時間は愛嬌たっぷりに笑顔で挨拶をしたり、「また来てね！」と言ってハグをしてくれたりしました。子どもたちがこれからも安心して生活をし、少しでも自分で選択をして臨む未来を歩んでいけるように自分にできることがあればしていきたいと改めて思いました。

ヨルダンに限らず、世界中の難民のために日本の企業も取り組んでいます。例えば、山口県を代表する世界のUNIQLOも、支援活動をしています。
また、世界で活躍するMIYAVIさんがUNHCRの親善大使をされています。気になったら、ぜひ見てみてください。

Let's talk in Arabic♪ のスペースが無くなりました…

では、また次回！مع السلامة

2022-1 次隊　岡﨑 友里

命をいただく犠牲祭

ヨルダンでは、ラマダン明けの「イードアルフォトル」に次ぐお祭り（イード）がありました。名前は、「イードアルアドハー（犠牲祭）」です。ラマダン明けから同僚たちに「もう１つお祭りがあるのよ。そのお祭りも（イスラム教徒の）私たちにとって大切だから、ぜひ見てみて。」と言われていました。今回、どんな様子だったか紹介します！

「イード アル アドハー」とは？

その昔、神が信仰心を試すため預言者アブラハムに対し、息子イスマイルを犠牲に捧げるように言います。アブラハムはしぶしぶ応じようとすると、神はその信仰心を称え、替わりに子羊（動物という説もあります。）を犠牲に捧げるよう告げたといいます。その逸話にならって行われています。

お金に余裕のある人は、羊ややぎ、らくだなどを１頭購入し、そのお肉を恵まれない貧しい人や親族などに分け与えます。お肉を売って利益を出したり、たくさんのお肉を食べたりすることが目的ではなく、恵まれない人々が幸せになり、そして、家族や親戚との絆が強くなるように行われるそうです。そのため、動物たちが利益のために利用されないよう、屠殺する動物にも条件が定められ、購入したお肉を転売するようなことは禁止されています。

イードアルフォトルと同様に、人々は新しい服を買って当日に向けて準備をしていました。ただ、今回はラマダンのような派手な装飾がされるのでなく、お店で家畜の形の雑貨を見る程度でした。

それまで広い空き地だった場所には、家畜を販売するための場所が特別に設置され、前日までに一足早く訪れて、予約していく人がいました。

「イード アル アドハー」っていつ？

イスラム暦でいう「ズル アル ヒッジャ月」の10日目、ラマダン明け約70日後に行われます。ズル アル ヒッジャ月はメッカ巡礼の月（No.13参考）です。この期間が「メッカの大巡礼（ハッジ）」と言われ、世界各地からサウジアラビアの聖地に200万人を超える人が集まると言われています。

このズル アル ヒッジャ月の10日目が、今年で言うと6月28日になり、続く29日、30日、7月1日の4日間が祝日となりました。

ちなみに、イード前の10日間は特別な期間であり、人によっては、ラマダンと同様にイード前の期間に断食をする人もいました。体や心を強くし、信仰心を表すためのようです。

予約されたであろう羊の体には、数字や名前が書かれていました。

心なしか羊が覚悟を決めたような切なくも悲し気な様子に見えました…。

イードの初日は朝早く起き、新しい服を着て、集団礼拝に行きます。お祈りに使う絨毯を手にして歩いていました。

集団礼拝が終わった7時ごろ、人々は羊ややぎを買いに車でやってきます。ほとんどが家族連れで、会場は大混雑。

こちらのおじいさんは羊を3頭購入し、その場で様子を眺めながら、一緒に来ていたお孫さんたちに説明していました。

決まった手順があり、首を切って血を出した後、皮をはいでいきます。鮮度は大切なため、手際よく進めていました。

あっという間にお肉が切られていき、購入した人は、持参した鍋や袋に入れてもらってその場を去っていきました。

購入する人が増えるにつれて、別の場所でも作業が行われました。皮が屋根の部分にかけられていたのは驚きました…。

家族連れも多く、中には、小学校低学年の子どももいました。私が見かけた子どもたちは、生々しい屠殺の様子にも臆することなく眺めていました。ほんの数秒前まで鳴いていた、歩いていた動物たちの命をどうやっていただいているのか、ヨルダンでは、小さいうちから目の当たりにするのだとわかりました。本来の目的ではないのかもしれませんが、「食べる」という行為の原点に戻って、命と向き合い、命の大切さについて小さいころから考えることができる機会だと感じました。

ちなみに、イスラム暦でいうこのズル アル ヒッジャ月は、一年の最後の月です。つまり、今はイスラム暦で言う年末です。ということは…、イスラム暦の新年がもうすぐです。

Let's talk in Arabic♪

今回は、犠牲祭にちなんで、動物たちのアラビア語を学びましょう。

らくだ

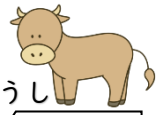
جمل
読み方：ジャマル

やぎ

معزة
マアザ

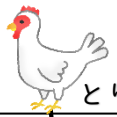
ひつじ

خروف
ハルーフ



うし

بقرة
バカラ



とり

دجاج
ダジャージュ

ぶた

خنزير
ハンジィール

イスラム教徒の人たちは豚肉を食べません。その理由は、「不浄の動物」とされ、コーランにも禁止と記載されているからです。そのため、日本では豚肉を食べることを伝えると、よく驚かれます。ヨルダンの犠牲祭では、家畜の動物たちの中でも羊が多かったです。現地の人は「羊が一番おいしい！」と話していました。

どの動物であっても感謝しておいしくいただくことが大切だと改めて思いました。

では、また次回！ مع السلامة